

## 小輪系アスターの周年栽培における高品質安定生産のための電照処理法

### [要約]

小輪系アスターの周年栽培で品質低下が問題となる夏播きでは、定植後から2ヶ月程度の電照処理(23:00~2:00の暗期中断)で切花長を長くできる。また、春播きでは育苗時から定植2ヶ月後までの電照処理で開花を早め、切花長を長くでき、高品質安定生産が可能となる。

農業総合センター園芸研究所

### 1. 背景・ねらい

近年、ファッション性の高い小輪系アスターが育成され、電照処理を駆使した周年生産が導入されつつある。しかし、夏播きでは切花長が短くなってしまふことや、春播きでは開花が遅れることに加えて切花長が短くなることが問題となっている。そこで、切花品質等の低下がみられる播種時期における電照処理期間の違いが切花品質に及ぼす影響を検討し、周年栽培の高品質安定化を図る。

### 2. 成果の内容

- 1) 毎月5日に播種し、播種時期と開花との関係を検討した。電照処理(23:00~2:00の暗期中断)は播種後から3ヶ月間を基準に行い、処理期間を7月20日から3月20日までとした。生育夜温は15℃で管理した。ほとんどの播種時期で、播種後105~125日間で開花したが、3月播種区では約140日と長かった。切花長は9~12月播種区で長かったが、その他の播種時期では短かった(図1)。
- 2) 夏(7・8月)播きでは、電照処理を定植後から2ヶ月以上行うことで切花長が長くなり、切花品質が向上できる(図2)。
- 3) 春(2・3月)播きでは、育苗時から電照処理を行うことで、開花を早くでき、定植後から2ヶ月以上電照処理を行うことで、切花長が長くなり、切花品質が向上できる(図3)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 電照処理は75Wの白熱電球を2m間隔・高さ1.5mで設置し、23:00~2:00の暗期中断で行った。
- 2) 育苗は最低夜温15℃で約1ヶ月間行い、本葉4枚展葉を目安とした。
- 3) 春播きのように短日時期に播種する場合は、育苗時から電照処理を行い、開花の遅延を回避する。
- 4) 本実験は無摘心で行った。
- 5) 本実験は「ヒメローズ」を用いた。小輪系アスターは多くの品種があるので、個々の品種特性を把握することが必要である。
- 6) 連作を避ける。

4. 具体的データ

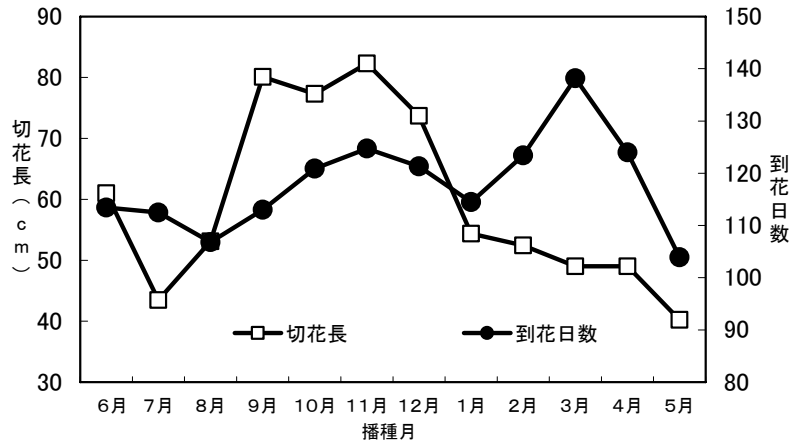


図1 播種時期が切花長および到花日数に及ぼす影響

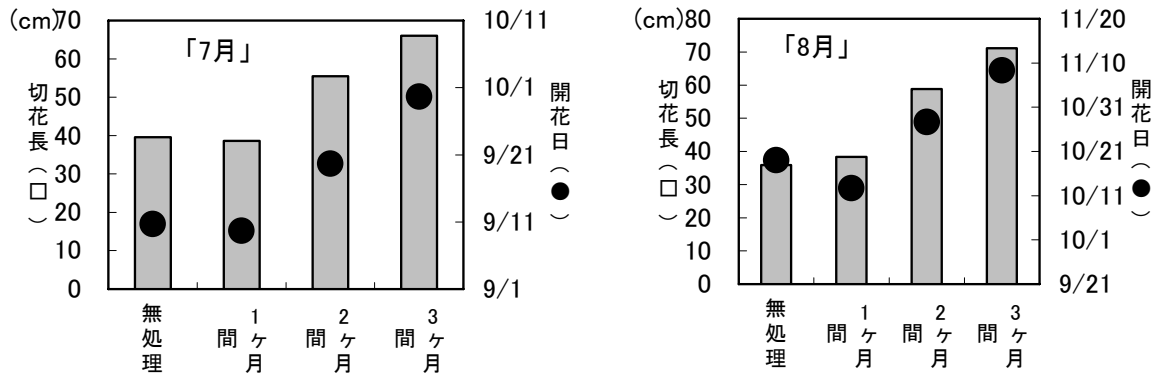


図2 夏(7・8月)播きにおける電照期間の違いが開花・切花長に及ぼす影響

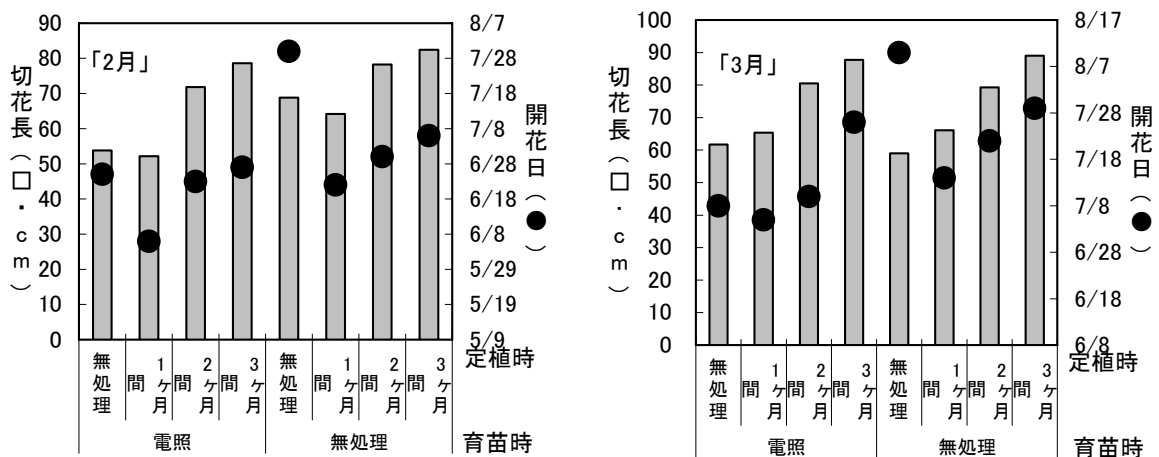


図3 春(2・3月)播きにおける育苗時および定植後の電照処理の違いが開花・切花長に及ぼす影響

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

小輪系アスターの品種と生育特性の解明・平成13～14年度・花き研究室